

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 28 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242023

研究課題名（和文）先島地域の狩猟採集社会および農耕社会における人間と環境との相互作用の解明

研究課題名（英文）A case study on an interaction between human being and environment in the hunting-gathering society and agricultural society of Sakishima area.

研究代表者 北條 芳隆 (HOJO YOSHITAKA)

東海大学・文学部・教授

研究者番号：10243693

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：先史学、先島地域、狩猟採集社会、農耕社会、人間と環境

## 1. 研究計画の概要

本研究は八重山地域における狩猟採集経済社会の段階と水稻農耕社会の段階とにおける周辺環境との相互作用の差違および共通性を解明すべく実地研究を進め、島嶼部という外部の社会的要因を受けにくい閉鎖的環境のもとで把握される様相はモデル化が容易であるという特性を活かし、人類史の枠組みとして調査成果の再構成を目指すものである。同時に考古学・生物学という各専門領域を横断したところに掘り下げるべき課題を設定し、学際的融合型の実地調査・研究を構築している。考古学は3チーム・生物学は1チームの全4チーム構成であり、西表島地域の網取遺跡・祖内遺跡および周辺環境の調査を軸とし、比較対象として宮古島の長墓遺跡の調査を行っている。

このような調査体制のもと、八重山地域における原始古代から近世にかけての人類の活動が周辺環境に与えた影響および人為景観の具体像の把握を目指すものである。

## 2. 研究の進捗状況

2008年度から4チームは並行的に各調査対象地における実地調査を進めており、宮古島長墓遺跡の発掘調査については所期の目的を達成した。現在出土遺物の分析作業を鋭意進めている。また西表島祖内遺跡については2009年度の発掘調査によって、中世期に遡る可能性の高い水田跡を突き止めた。現在は年代測定・土壌分析等を鋭意進めており、次に述べる網取遺跡との対照作業を行う事前準備を整えつつある。

網取遺跡においては2010年度までに近世期の水田遺跡の調査を完了する予定であったが、2010年度の調査において初期水田は中世（16世紀代）に遡ることと、上層の近世水田との間には明和大津波より100年程度前の津波堆積が認められ、中世と近世の間には断絶と復興を伴う実を突き止めた。この結果を受けて、2011年度には再調査を実施することになった。一方2008年度から継続的に実地調査を進めている生物学チームは、人間が捕食対象とする特定の貝種における生態的特性の把握と捕食圧の具体的なデータ把握に成功した。また水田環境に適合的な昆虫であるエンゴロー類の現在における生息状況を把握し、水田の放棄によってもたらされた絶滅の危機的状況が具体的なデータとともに把握された。

## 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している

(理由)

本研究では生物学チームにおいて分担研究者1名が2年目に逝去するという不幸な事態を経験したが、他の分担研究者がそれを補い、すべてのチームが現地調査を順調に進め、初期の目的を達成することができた。さらに新たな津波痕跡の確認という当初予測にはなかった成果をもたらされたことは、学問的課題として、また早急に新たなテーマを与えられることになったと考える。

#### 4. 今後の研究の推進方策

2011年度は本研究の総まとめを行う予定である。現在チームごとに別途進めてきた分析結果を総合し、人類の活動と環境との相互作用の実相を導く予定である。なお網取遺跡で確認された津波堆積層は、自然との相互作用において災害という重いファクターを加えるべきことを如実に示した。今後は人為景観の問題と自然災害との相互作用の解明という新たな要素が加わることになった。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計12件)

- ①北野 忠・唐真盛人・水谷 晃・崎原 健・河野裕美2011(印刷中)「西表島における中・小型ゲンゴロウ類の生息状況」『沖縄生物学会誌』49号(査読有り)
- ②北條芳隆2010「歴史を領有する水稻農耕民」『メトロポリタン史学』第6号(143-177頁)(査読無し)
- ③田崎博之・外山秀一・宇田津徹朗2010「文京遺跡における縄文時代後期の稲作農耕空間の探求」『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報-2008年度-』愛媛大学埋蔵文化財調査室(122-162頁)(査読無し)
- ④田崎博之2010「朝鮮半島南部における新石器時代中期～青銅器時代の気候変動と農耕化のプロセス」『先史学・考古学論究V』(龍田考古学会)(925-938頁)(査読無し)
- ⑤小菅丈治・河野裕美2010「石垣島伊土名におけるオオナキオカヤドカリとオカヤドカリの貝殻利用」『南紀生物』52巻2号(113-118頁)(査読有り)

[学会発表] (計18件)

- ①北條芳隆・河野裕美・永谷幸人(2011)「近世の八重山地域における定住化および水稻農耕が環境に与えた影響に関する考古学的研究」『東海大学研究フォーラム2010』2011年3月6日,東海大学,神奈川県平塚市
- ②河野裕美・水谷 晃・小菅丈治・丹尾岳斗(2010)「仲ノ神島海鳥集団繁殖地におけるオカヤドカリ類の初記録」『沖縄生物学会第47回大会』,2010年5月29日,名桜大学
- ③丹尾岳斗・小菅丈治・河野裕美(2010)「西

表島網取集落跡地周辺におけるオカヤドカリ類の宿貝利用と分布特性 - 漁労採集生活とオカヤドカリ類に使用される宿貝の関係 -」

『日本生態学会第57回全国大会』2010年3月17日-20日,東京大学駒場キャンパス,東京都(P2-149),

- ④唐真盛人・水谷 晃・崎原 健・北野 忠・河野裕美(2010)「西表島に生息する小型ゲンゴロウ類-各種の湿地環境別における生息状況-」『日本生態学会第57回全国大会』2010年3月17日-20日,東京大学駒場キャンパス・東京都(P2-148)
- ⑤唐真盛人・水谷 晃・崎原 健・河野裕美・北野 忠・内田晴久(2009)「西表島における水田環境の変遷とゲンゴロウ類の生息状況の関わり」『第56回日本生態学会』2009年3月17-21日,ポスター発表(PC1-369),岩手県立大学,岩手県

[図書] (計2件)

- ①北條芳隆2009「大和原風景の誕生-倭王権が描く交差宇宙軸」『死の機能』岩田書院(29-100頁)
- ②田崎博之2008「発掘調査データからみた土地環境とその利用-北部九州玄界灘沿岸における検討-」『地域・文化の考古学』(323-342頁)